

## シドクラフト社バーサベック原子力発電所 ペール・リンデル所長との会合

日時：2000年5月2日 11:00-12:45

場所：スウェーデン国バーサベック原子力発電所

先方：ペール・リンデル所長 リチャード・ベークマン広報担当

当方：加納時男議員 小宮山永デンマーク国二等書記官 市村（記録）

### リチャード・ベークマン広報担当からの概要説明

- ・バーサベック原子力発電所は一号機が1975年、二号機は1977年より、共に安全に操業してきたが、政治的な理由により、一号機は昨年11月30日に、二号機は2001年7月に廃止される。
- ・現在、同発電所は、シドクラフト社100%子会社の「バーサベック・クラフト社」により管理運営されているが、2001年7月にはバッテンフォール社に移管される。
- ・政府は1980年の国民投票の結果を重視しており、それを実行するために何らかのパフォーマンスが必要だった。その具体的措置が今回の廃炉である。
- ・バーサベックがスケープゴートになった理由として
  - スウェーデン内の原子力発電所として最小規模であること（2基合計で123万Kw）
  - スウェーデン内で、立地地域周辺の人口密度が最も高いこと
  - 海を挟んで25Kmにあるデンマークからの圧力が強いこと
 等が考えられるが、極めて政治的な理由であり、真相はわからない。
- ・今回の決定が政治的なものであることは、以下に示す「統計調査」でも明らか。これは統計専門会社のTEMO社に委託して行ったもの。

サンプリングは1,000名以上。近隣地域とは「発電所から半径20km圏のスウェーデン国内」。スキーネ地方とは「発電所から半径100km圏のスウェーデン国内」。コペンハーゲンとは隣国デンマークであり、発電所とはバルト海を挟んで約25kmの距離である。

### <バーサベック発電所を信頼している YES>

	1995	1996	1997	1998	1999
近隣地域	94%	-	-	-	97%
スキーネ地方	90%	89%	93%	94%	94%
コペンハーゲン	68%	63%	76%	74%	69%

<バーサベック発電所に事故の懸念は無い YES >

	1995	1996	1997	1998	1999
近隣地域	87%	-	-	-	93%
スキーネ地方	81%	83%	88%	88%	88%
コペンハーゲン	65%	68%	73%	73%	67%

<原子力発電所の増設は必要 YES >

	1995	1996	1997	1998	1999
近隣地域	-	-	-	-	91%
スキーネ地方	-	-	-	82%	81%
コペンハーゲン	-	-	-	38%	38%

質疑応答

加納：非常に興味深い調査結果だ。南スウェーデンのほとんどの方が同発電所を支持し、信頼していることがよく分かる。この内容はデンマーク政府等に公表したのか。

リデル：デンマーク政府に対し、当該結果に対するプレゼンテーションの場を設けて発表を行う予定であったが、最終的には来てもらえなかった。なぜかスウェーデン政府も来なかった...デンマーク政府に遠慮しているのか...

加納：発電所を視察させていただき、どうしてもわからないのは「何故バーサベックが廃炉になるのか」といった根本的な疑問だ。現在の率直な感想を聞かせていただきたい。

リデル：加納議員と同様の感想をスウェーデン国民は抱いている。怒りすら感じている。政府は「極めて合理的な決定」と言うがどこが合理的なのかしつかりとした説明は一切無い。

加納：廃炉により 61.5 万 kW の電源が失われた訳だが、代替はどのように行うのか。

リデル：政府は風力や太陽光といった再生可能エネルギーで賄うと主張するが、現実にはポーランド・ドイツ・デンマークから輸入することになる。

その電源はほとんどが石炭火力だ。

加納：上述の統計を見て驚くのは、コペンハーゲン在住のデンマーク人でさえ、バーサベックに対し、約七割が安全性を確信し、事故は起こり得ないと考えていることだ。2001年7月には、二号機も廃炉となるようだが、この動きに対しては如何お考えか。

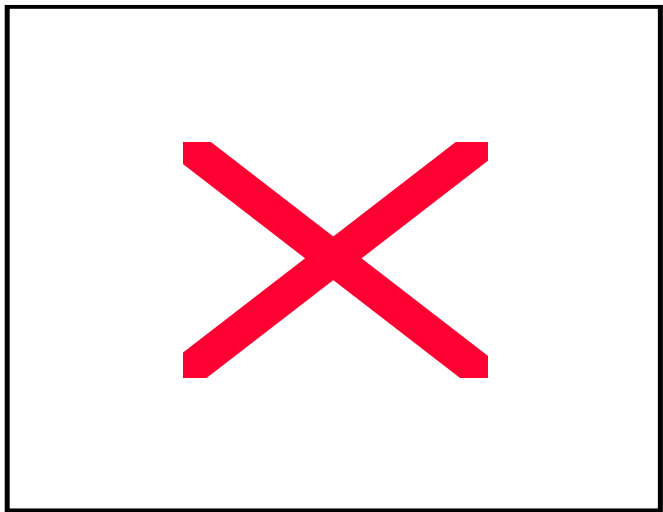
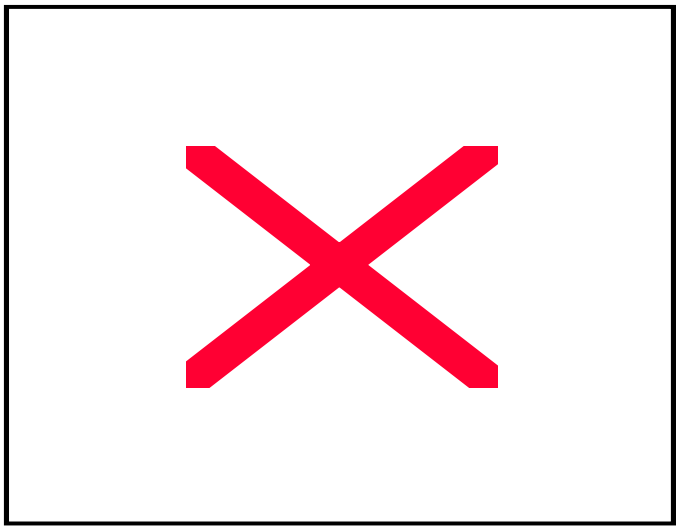
リデル：とにかく何としてでも廃炉だけは避けたいと考えている。無駄かもしれないがあらゆる活動を行いたい。これは我々だけでなくスウェーデン人全体の願いだ。1990年時点では、政府は「代替電源を手当てした上で廃炉にする」との声明を発表した。が、今日まで具体的政策を表明した様子は無い。

加納：今回の決定が政治的なものであることは十分理解できる。こうした決定に至った政治的背景はどのようなものとお考えるか。

リデル：ご存知のように現在は「社民党・共産党・緑の党」三党による連立政権。第一党である社民党は、共産党・緑の党に政権参加を求める際にエネルギー政策でかなり歩み寄った。その結果が今回の決定。社民党ですら、党内は原子力問題に対し賛否両論が渦巻いている。政権与党で居るための単なる妥協でしかない。代替電源問題が解決していない状況では、首相ですら、本音では廃炉はしたくなかったはず。

加納：稼働率は80%以上を維持しており、技術的問題も一切無いのに廃炉とは、実に虚しい話だ。デンマークからの政治的圧力はかなり強いものだったのか。

リデル：詳しいことは分からないが、デンマークにとって、バーサベックは「廃炉のシンボル」であり、今回の決定は一種のセレモニーと捉えているのであろう。いずれにせよ、今回の措置で最も得をしたのはデンマーク人だ。



以 上